

第14回鳥栖市総合教育会議 議事録

会 議 名	第14回鳥栖市総合教育会議
日 時	令和3年5月12日(水) 開会 午後1時10分 閉会 午後2時40分
会 場	市役所3階第1委員会室
公 開 ・ 非 公 開	公開
出 席 者	構成員：橋本市長、天野教育長、古澤教育委員、吉原教育委員、 戸田教育委員、副田教育委員 事務局：小柳教育部長 青木教育部次長兼教育総務課長 立石教育総務課長補佐兼総務係長 説明員：中島学校教育課長 日吉学校教育課参事兼課長補佐兼指導主事 井手学校教育課参事兼教育指導係長兼指導主事 長野学校教育課インクルーシブ教育推進係長 犬丸学校給食課長 城島教育総務課教育支援係主査
傍 聴	0人
協 議 事 項	◆教育大綱の改定について ◆部活動の地域スポーツ化について
報 告 事 項	◆中学校完全給食の準備状況 ◆GIGAスクールの状況
発 言 者	内 容
青木教育部次長兼 教育総務課長	<p>それでは改めまして、こんにちは。ただいまより、第14回鳥栖市総合教育会議を始めさせていただきます。</p> <p>本日、ご議論いただく協議事項は「教育大綱の改定について」と「部活動の地域スポーツ化について」の2点でございます。また、その後に報告事項を予定いたしております。</p> <p>進行に当たりましては、橋本市長にお願いすることになりますので、橋本市長よろしくお願いたします。</p>
橋本市長	<p>こんにちは。総合教育会議ということで、お集まりいただきましてありがとうございます。本日は1時間ぐらいいを日途に終了したいと思っておりますので、ご協力をよろしくお願いたします。</p> <p>協議事項は2項目ございまして「教育大綱の改定について」並びに「部活動の地域スポーツ化について」ということで、よろしくお願いたします。</p> <p>順次「教育大綱の改定について」から事務局の説明をいただいて、</p>

	ご議論いただければと思います。よろしくお願いします。
立石教育総務課長補佐 兼総務係長	(資料に基づき説明)
橋本市長	はい、ありがとうございます。教育大綱の改定について、大体の方向性とスケジュールについては、今後の総合教育会議の中で内容を示して、ご意見をいただく機会を設けるということでございます。委員の皆さんからご意見を頂戴する機会としては、次回いつごろの予定でしょうか。
立石教育総務課長補佐 兼総務係長	これから庁内でも改定案を検討した上で、7月の定例教育委員会に合わせて、総合教育会議を開催できればと考えております。
橋本市長	2ヶ月後という予定だそうでございます。これについては、まだ素案もございませんので、こういう進め方でよろしいかという、ご了解だけいただければと思っております。何かございましたらお願いします。教育長は、何かよろしいでしょうか。
天野教育長	この教育大綱の中の「4つの教育方針」というのは、よく教育の世界では「流行と不易」という言葉を使いますが、この「不易」の部分というのがこの教育方針にあたりますので、これを大きく変える必要はないと思います。「流行」の部分ということでいきますと、これから5年、10年で「コミュニティ・スクール」「インクルーシブ教育」「ICT教育」等の様々な教育環境整備という流れが来ておりますので、教育方針の下にこの辺の部分が出てくると思っております。それともう一つは「自己実現」「心豊か」「安心安全」というような言葉がキーワードになってくると考えておりますので、そういう方向でお願いできればと思っております。以上です。
橋本市長	はい、ありがとうございます。今後見直しを進めるに当たって、こういう検討もしておくべきではないかなど、何かご指摘はありますでしょうか。特によろしいでしょうか。 よく最近言われている「多文化共生」や「相互理解」ということで「LGBTQ」についてどう扱うのかということがあります。 先日、弘堂国際学園の校長にお越しいただいたのですが、校長ご自身もバングラデシュから日本の国費留学生として九州大学にお越しになって、九州大学を卒業された後は、日本の大学でずっと教鞭を執られていて、今回新たに学校長に就任されたということなんです。彼は「日本に住んでいる中で、例えばバングラデシュコミュニティ、ネパールコミュニティとかそういうものを作るのではなくて、日本人の中に根づいていくような住まい方というか暮らしの仕方を目指していきたいし、受け入れる側としても隣人として受け入れていただけるような働きかけをしていきたい。」ということをおっしゃ

っていました。この地域は、今は外国人比率が1.8%ぐらいに上がってきていて、例えばその労働力とかもろもろを考えたとき、外国からの人を受け入れていくというのは、今後我が国にとっても大変大きなことだと思っておりますので、そこら辺は少し頭に置く必要があると感じております。九州大学でも、大学院生の4分の3が外国の人だそうで、もうその皆さんがいないと大学院も成り立たないということのようでして、実は我が国は外国の人たちに支えられているということもあって、非常に我々もしっかり考えないといけないと思っております。そこら辺は、これから先のことを考えると、どういう取組をしていくのかが一つ重要な事柄だという感じもしておりますので、申し上げたいと思っております。

この教育大綱の改定につきましては、こういう方向性で検討を進めるということによろしいでしょうか。また次回の総合教育会議の中でご意見を賜ればと思っておりますので、よろしく願いいたします。それでは、事務局としてはこの方向性で作業をいたします。

次の「部活動の地域スポーツ化」について協議したいと思っております。

佐賀県としてもこの度、多久市と基山町において、部活動地域スポーツ化ということで踏み込んだ取組みをされております。先日佐賀県の落合教育長から、学校側の考え方や各教育委員の考え方もあるとあって、すんなりとはいかなかったということは聞いております。まず生徒数の減少に伴って、才能・やる気があっても取り組めない部活動も出てきているということで、それを地域スポーツ化することによって解消していく、子どもたちの発展可能性の芽を摘まないという意味でも必要なんじゃないかというご指摘もいただいております。

また、鳥栖であれば「サガン鳥栖」や「久光スプリングス」があつて、早くからプロを目指す子どもたちは、小学生の頃からそのユースに入って活動するというところで、部活動とは全く違うところで活動がなされています。それ以外にもプロではございませんけれども、体操・レスリング・ボクシング等は、この地域で国際試合に出るような選手が出てきております。彼らもやっぱりその学校とは違うところの場所で活動をしていて、学校は学校ですけれども高校生と一緒に練習しているとかそういう状況があります。その意味では、かなり二極化をしているといえますか、幾つかのスポーツについては本当にプロになろうという皆さんの道と、あるいは体育としてという言い方が適切かどうか分かりませんが体育としてスポーツに取り組む道と、幾つかの道が用意されてきている。その中で中体連などの学校対抗戦というものがありますが、それもどうなのかと

	<p>いう時代になりつつあります。そういう意味で、国の流れから基礎となるところをご説明いただいて、ご議論いただければと思っておりますので、よろしく願いいたします。まず国の動きから順次説明をお願いいたします。</p>
<p>日吉学校教育課参事兼 課長補佐兼指導主事</p>	<p>(資料に基づき説明)</p>
<p>橋本市長</p>	<p>今「部活動の地域スポーツ化」について国の動きをご説明いただきました。幾つか質問をしてよろしいでしょうか。例えば、部活動の地域移行について様々な意見があって賛否両論あるということですので、代表的な理由を具体的に教えていただきたいということと、あと、県内で多久市と基山町が先行されるということですが、どのように取り組みをしようとしているのか分かれば教えてください。</p>
<p>日吉学校教育課参事兼 課長補佐兼指導主事</p>	<p>はい。まず、賛成の理由については、教師が専門でやってきていないことに関して、専門的に指導してもらえると子どもたちにとっての利益があるということです。それから、教師の負担が軽減されるということなどが挙げられます。</p> <p>反対については、はっきりと分からないことで、ぼんやりと反対しているといえますか、躊躇しているところがあります。実は部活動指導員に関して申しますと、現在は大分事務処理等の軽減はなされてきたものの、最初この事業が始まったときは、この手続に係る事務作業が結構色々ございまして、そちらの準備等に教師の負担がかかっているというのが現実問題としてあるということでした。当初、これが働き方改革に関する研究としての事業でしたので、成果と課題、計画と報告書というようなものがあるということ、それに伴って毎月の報告もございまして、そのイメージから新しく変わっていくとき、学校側の負担があるのではないかと、ちょっとぼんやりとした心配ではないかと考えております。</p> <p>それから、2点目の多久市及び基山町の取り組みについては、すみませんが、具体的なことを把握しておりません。多久市については、ちょっと聞いたところによりますと、学校の規模が小さいために、1校ではチームが成立しづらい競技があるということです。これについては、今のところ、鳥栖市では基里中学校以外はその心配はないという状況です。むしろ、田代中学校などは、部活動の部数に対して子どもたちの人数がかなり多いようで、なかなかその活躍の場というか、出場の機会が限られているというような状況があります。しかし、基里中学校にあつては、先ほど申し上げましたように、チームとして成立しないような競技が出てくるということで、これは喫緊の課題として挙げられているところでございます。多久</p>

	<p>市については、そういうこともあって、やはり合同でチームを作り、地域に移行していくことでその解消をしていくことを考えていらっしゃるかと聞いております。以上です。</p>
橋本市長	<p>ありがとうございます。あともう一つ、部活動指導員として来ていただいている方の専門的指導ということですが、コーチングの技量、そこら辺をどこかで測るチャンスはあるのでしょうか。例えば、サッカー、陸上、硬式野球、テニス等々で社会体育のクラブチーム等に入団している生徒は、多分そのコーチングを求めてその指導者のもとで教わりたいということに通っているか、あるいは、そのクラブチーム等に通ったらこういう進路が開けるということに通っているということなんだろうと思います。中学校の部活動で外部の指導員から教わる生徒と、その温度差というかどういった棲み分けになってくるのでしょうか。</p>
日吉学校教育課参事兼課長補佐兼指導主事	<p>コーチングのスキルを身に付けていらっしゃるかどうかということでしょうか。</p>
橋本市長	<p>ですから、例えば、佐賀県で取り組まれている「SSP構想」とかあるじゃないですか。結局、どの程度のところを目指す皆さんを育てるのかということです。全国大会で上位に行く人たちを育てるということのためには、それだけの指導の技量を持った人を連れてこないといけないという話もあります。レスリングでは鳥栖工業高校の小柴監督、駅伝では鳥栖工業高校の古川監督とかいらっしゃいますが、その監督を慕って通学に1、2時間近い時間をかけてでも通ってくる生徒がいるということもあります。たまさか、その地域で多少スポーツが上手な方をお願いをして指導をしていただくのと、どの程度の違いなんだろうなということです。</p>
日吉学校教育課参事兼課長補佐兼指導主事	<p>その違いについては申し訳ありませんが、明確な回答は出来ません。しかしながら、現在の部活動指導員は、地域の人材でして、過去にその競技のご経験があって、もともとボランティアで生徒たちの外部指導員のような形で関わっていただいていた方々です。それですので、技術のレベル、あるいはそのコーチングのスキル、そういうものの基準を測ってお願いしているようなことはございません。ただ、県から出されている部活動指導を行うに当たっての心得のような研修の資料がございますので、その資料をもとに説明はさせていただきます。あと、子どもたちへの関わり方について振り返りをするようなアンケートもございます。その中に、申し訳ないですが、コーチングに係る内容の質問項目があったかどうかは記憶しておりませんが、主に体罰であったり、言葉かけのやり方であったりとか、そういった基本的な子どもたちに関わる時</p>

	のスキルに関する質問内容であったかと記憶しております。以上です。
橋本市長	はい。どうぞ。
中島学校教育課長	今、市長からお話がありましたように、県が進めております「SSP構想」で考えますと、例えば兵庫県と佐賀県に本拠地がある久光スプリングスで本年度退団された選手がいらっしゃいますが、そういう方々に鳥栖市の中学校で指導をしていただくというのも理想的かもしれません。しかし、公立の中学校の場合、どこにレベルを設定するのか非常に難しいところがあります。例えば「この中学校では全国大会を目指すようなチームを作ります。」というような設定は、市が強化校として指定するような形にしない限りは難しい。そういった捉え方をすると、久光スプリングスを退団された選手がどこかのチームで指導を行うというよりは、市内の中学校を回って指導をしていただくような形になるかと思えます。
橋本市長	あともう1点お聞きしたかったのが、学校をまたいで部活動を行うということはないんですね。例えば、テニスをしたいということで、基里中学校の生徒が鳥栖中学校でテニスをするとかそういうことはやってないんですね。あくまで中学校に外部から指導者に来ていただいて部活動を行うということで、学校をまたいで部活動だけ行うということはないということでしょうか。
中島学校教育課長	はい。先ほども話がありましたように、現実的に部員が少なく単独校ではチームが成立しないという場合には、県中体連、全国中体連で合同チームが認められておりますので、そういう場合には学校をまたいで一緒に練習をするというのは可能でございます。県内ではございますが、鳥栖市の場合は現時点ではございません。
橋本市長	私ばかり質問して申し訳ないですが、「SAGA2024」いわゆる国民スポーツ大会が佐賀県で開催されますが、よく開催県が優勝するという話があったように聞いています。その大会に向けて、得意な方を教師として雇って、チームを強化して勝ちに行くということがあったように聞いておりました。今回の「SAGA2024」に向けて、そういう動きってというのはあるのでしょうか。
中島学校教育課長	高校では、確かに強化指定校がございまして、また中学校でも指定はされております。ただ、高校と中学校では、非常にその取組方には差があると感じております。そこが部活動の勝利至上主義というか、そこの兼ね合いで非常に難しいと思うところがあります。
橋本市長	あえて伺ったのは、要は「SAGA2024」に出場する子どもたちは、今小学生から中学生なんです。だから、たまさかその開催年に当たる子どもたちが、今小中学校に在籍しているのでそこでどうい

	う考え方が示されてるのかということのを伺いたかったんですが。
天野教育長	<p>3年ぐらい前から2024国民スポーツ大会に向けて県が強化拠点校を指定していて、田代中学校は空手と体操、鳥栖中学校は体操ということになったんですけれども、昨年度から絞り込んだ強化を図る必要があるということで、強化拠点校のうち推進校は廃止されて、指定校についても競技等を絞って強化していくということになりました。先ほど言われましたように「若楠国体」のときに佐賀県の場合は多くの指導者が入って、結局その後に体育教員が入らなかったということも現実としてありましたので、そういうことも含めて、以前のような取り組み方とは違ってきていると思います。</p> <p>もう一つ、先ほどの基山町の地域スポーツ化についての状況ですが、私も興味がありましたので聞きましたら、基山町の場合は、野球・バレー・卓球の三つの競技に絞ったということです。野球は、教育委員会に専門でずっと野球をしてきた指導主事がおりますので、彼が中心となって、保護者会を組織として対応するという事です。要するに、活動費用等そういったことも含めて全部、保護者会が受け皿となって活動を行うということです。それからバレーも、中学校の教員が1人専門でおりますので、彼を中心として、社会の教職員であるけど社会体育の指導員として、それも保護者会が受け皿となって活動を行うということだそうです。それから卓球は、社会体育の「少年卓球クラブ」がありまして、そこに小学生が入部していたんですが、さらに中学生を入部させるということで「社会少年卓球クラブ」として受け皿になるということです。まずは、その三競技で実施していくということだそうです。</p> <p>今後の方向として考えてみた場合、私は、今のこういう時代の中で、地域スポーツクラブを中心にやっていくべきだろうと思います。将来的には、中学校の部活動はもうなくなるんじゃないかなと、なくていいんじゃないかと思えます。そこをある程度考えていかないと、働き方改革もありますので、色々と部活動でやりたい教員もいるとは思いますが、そういう方々は、社会体育の一つとしてやっていただくということではないかと思えます。制度的なもので色々と見直しが必要になってくるとは思いますが、そういう感じがしております。以上です。</p>
橋本市長	はい、ありがとうございます。皆さんのほうからご質問とかご意見とか、こういうことを考えるべきではないかとかご指摘がありましたらお願いします。
戸田教育委員	この「部活動の地域スポーツ化」の方向性は、私自身も賛成です。先ほどの現状のお話にありましたように、部活動が成り立たない競

	<p>技が出てくるといことならば、子どもたちのやりたい機会を確保できるという意味でも、教職員の方の働き方改革という点でも、ぜひ実現出来ればいいなと思っております。ただ、先ほど教育長から、行く行くは地域に担われればいいなということは何となく分かりますが、そこまでの移行期がとても難しいのかなと思っております。</p> <p>今実現してる社会体育の例は、習い事として、ビジネスとして成り立ってるものにプラスして、さらにエリート養成というか、強い種目の競技があって成り立っている。それと部活動との間にはかなり差異があるので、普通のレベルの子どもたちのスポーツの機会をどのように実現すればいいのかというのは、なかなか難しいと思います。今出てきた野球、バレーボール、卓球など、そちらは成り立ちますけれども、部活動にはそうじゃない違う種目の競技、文化系も含めてあるので、同じように先生方の負担はそちらにもあると思います。そういったことをどのようにしていくのか。これから、先の絵をかいた上で、移行期をどう乗り越えていくのかというのは難しいと思いますが、現場で何かお考えがあればぜひ教えていただきたいです。</p> <p>もう一つは、この移行期についてですけれども、休日の部活動指導を先生方の負担軽減のために、どなたかにお願いするという事なんですよ。そこにおいて、何かあったときの責任の所在はどこにあるのか、運営していくうえで中長期的に学校がどう関わっていくのか。これまでの部活動指導員よりも、もう1歩進んだ形になりますので、これは直近に出てくる問題だと思います。休日に必ず先生が付いていかなければならないのであれば、負担軽減としては不十分だと思いますので、学校の関わり方や責任の所在、その辺りの現時点における考えもあわせて教えていただきたいと思っております。すみません。二つの質問です。よろしくお願いします。</p>
<p>中島学校教育課長</p>	<p>今おっしゃっていただいたことは、私も中学校の教員として、部活動をしてきたものとして問題点だと感じております。国が示しているように、部活動を学校単位から地域単位への取組ということで、現実として平日は教員、休みは外部指導員という形が、本当に成り立つのだろうかということを非常に疑問に感じます。指導の一貫性、生徒指導上の責任をどうするのか、非常に難しい面があると思います。国の考え方としては、その地域の責任ということが示されているんですが、果たして本当に学校は責任を取らなくていいのかなど、やはりそういう問題が出てくると思っているところです。</p> <p>だから、今も部活動指導員が各校に1名ずつ入っていただけてますけど、やはり責任問題をどうするのかということは、部活動指導</p>



	<p>員も気にされております。また、例えば学校である部活動に定期的に入ってもらっている外部指導者の方に部活動指導員をお願いしても、いや私はそこまでは責任持てないからということ断られたりすることも現実問題としてあります。その辺をどう整理していくのかというのは、非常に難しいと思います。この過渡期、変えようと思えば教育長が話されたように一気に変えるのが本当はベストなのではないかと思えます。言葉は悪いですが、国は小手先で動いてるような気がしてならないというのが個人的な感想です。非常に申し訳ないですが、そういう感じを受けております。</p>
橋本市長	<p>そこの責任問題に絡めてもう一つ言うと、そういうスポーツについては学校で活動するのは認めませんということになると、またそれ用に施設を作っていくかといけません。しかし、施設を作ることが出来ないということになると、その既存施設への移動は誰の責任になるのか、なかなか厄介な問題になってくると思えます。現在は、施設を利用するとき学校をまたぐことはないということですが、学校をまたぐことが普通になってきた場合に、どちらで移動の責任を持つのかとか、どういうふうに決めていくんでしょうね。放課後児童クラブのように、学校の授業が終わったら、学校の児童ではなくなって放課後児童クラブの児童になるので、教室は使ってはいけませんとか、部活動の場合もそういうことになってくるのでしょうか。</p>
中島学校教育課長	<p>実際に施設を考えたとき、学校施設以外の施設は非常に限られてくると思うので、それも難しい話かなと思います。今各学校の部活動の状況をみると、例えば卓球はどこかの卓球場で活動をしていたりしますので、学校施設を使っていない場合もありますが、ただ基本的にやはり学校施設で活動するというのが基本だという感じはします。</p>
橋本市長	<p>こちらは施設を整備する側だと思いますので申し上げますと、それぞれの学校で活動するとなってくると、例えばバレーボールは何と何の中学校、野球は何と何の中学校とかというように、その全部を整備しなければならなくなってくる。これは相当な財政負担になってくると思えます。</p> <p>ある意味、拠点校的な考え方で、野球をやりたい生徒はこの学校に来て活動をする、テニスをやりたい生徒はこの学校に来て活動をするというように、放課後になると中学校の生徒がこちらこちらを行き来するというようにする。少し違うかなと思ったりもしておりますが、そこら辺のより効果的な活動とか整備とかということを考えてみると、そこも少し頭に置きながらやる必要があると思えますがい</p>

	かがでしょうか。
中島学校教育課長	まず一つ受け皿の問題があると思います。部活動を地域移行したときに、受け皿としてしていただける機関や施設があるかということですね。どうしても今の受け皿が足りていない。足りない場合は、今市長が言われたように、拠点校という考え方になってくるのかなと思います。しかしながら、放課後になると、中学生が自転車で鳥栖市内をあちらこちら移動するというのも、非現実的という気はしております。でも地域移行になった場合は、そこも考えていかなければならないと思います。
天野教育長	中体連というその大会自体が、大きなネックになっていると思います。だから、本当に社会体育でしかやれないとなると、生徒たちはその社会体育のところに行って自分がやりたいスポーツをやるしかない。だから、鳥栖市も「フィット鳥栖」等の社会体育があるんですけど、そういった受け皿がもっと広がっていけば、そこに行って一生懸命に活動を行っていただくことが出来ますし、それ以外の生徒は、中学校で同好会的に活動を行っていただくことにする。小学校にもクラブがありますけれども、そのレベルで楽しみながら活動を行うことにする。それがベストじゃないかと思います。だから、施設や人材の問題など色々ありますが、あと10年ぐらいしたら部活動が全部なくなるんじゃないかと、なくした方がいいのかなという気もしております。
橋本市長	この文部科学省の資料には、2023年から部活動改革の全国展開となっているので、来年度までが移行準備期間ということになりますが、鳥栖市として、2023年からこうなりますという絵姿というか、その具体的な推進計画みたいなことは、何か議論されておりますでしょうか。
天野教育長	まだ特に議論しておりません。今回、多久市と基山町が強い思いで「地域運動部活動推進事業」を始めるということなので、そのようなことを受けながら、今後しっかりと部活動改革の全国展開ということを考えていきたいと思っております。
日吉学校教育課参事兼課長補佐兼指導主事	前の勤務校で、教員が土日の部活動に一切関わらないということで、短期間に進めていかなければならない状況があったときに、まず部活動のみでいただけるその人材がなかなかいっしょにいないということで、非常に困ったということ。それから、利用する施設ですが、最終的に学校を使うということで進めていったわけでございますけれども、施設に関して色々問題があったということ。それから、合同でチームを作るとなった場合に、どの学校が見るのかという責任問題をどうするのかということ。様々な解決していかなければ

	<p>ればならない課題が、次から次に、話合いが進めば進むほど出てきたということで、正直を申しまして、現実的な問題としてこのスケジュールで本当に出来るのか、今色々な整備が整っていない中で、果たして令和5年度から部活動の全国展開というのが、本当に間に合うのだろうかという危惧をしているところです。実は申し訳ありませんが、まだ十分な協議が出来ていないというところがございます。鳥栖市としては、部活動指導員を活用しながら、その拡充も考えながら、ただその一方で、受け皿や人材などの現実問題がありますので、出来ることからやりたいと思いつつも、出来ることが限られてるというようなこともあって、かなり困っているという状況です。</p>
橋本市長	<p>はい、ありがとうございます。そもそも、その部活動に何の意味を求めるのでしょうか。そこをどう求めるかによって、やり方はおのずと違ってくると思います。これからの部活動の学校としての位置づけをどうするのか、もう部活動は学校の活動ではないということで、学校で授業に専念するところであって、色々な文化、スポーツ活動は違うんだということにしていくのか。そこまで問われてくると、その位置づけの仕方によって、対応は全く変わってくるので、その議論をしっかりとしておく必要があるのかなという気がしていますが、そこら辺は皆さんいかがでしょうか。私は部活動をしたことがないので、何とも言えないですけど。今まででもいいですが、部活動というのはこういう位置づけでやってきましたということを教えていただいてもよろしいでしょうか。</p>
中島学校教育課長	<p>まず、部活動の位置づけとしましては、学校教育活動というのは「教育課程」と「教育課程外」と呼ばれる二つの内容で構成されておりまして、部活動は教育課程外の活動になります。その法令上、学校が設置・運営する義務はないということになるんですが、生徒の多様な学びの場として、その教育的意義は非常に大きいところがございます。私も学校教育課長としての立場と、個人的な立場ではちょっと考え方が違うところがあって、正直なところ、個人的には部活動が学校教育で果たす役割は非常に大きいと思います。生徒指導上、それから人間関係の形成、コミュニケーション能力の育成等、そういった面で非常に大きいものと捉えています。ただ働き方改革等々含めたところで考えていくと、今のままじゃいけないというところも当然ございます。そういったところで、この日本の中で部活動が果たしてきた役割は非常に大きいものがあるのではないかと思いますので、そこをなくしていくということに対しても賛否両論あると思います。ただ、教育的意義はかなりあるのかなという気はし</p>

	ております。
橋本市長	<p>一生懸命部活動をやられた方がいらっしゃれば、そうでなくても、それぞれ今までの議論を聞いていただいて、こんな視点が要るんじゃないかとかありましたらご指摘いただければと思います。1人1分ずつでお願いします。</p>
古澤教育委員	<p>仲間とともに、一生懸命バレーボールの白球を追って、市内の大会でいい成績を残そうと取り組んでいた遠い昔があります。今日の説明の中で、新入生の8割が部活動に入っているということからすると、体育系と文科系を合わせて2、3割ぐらいしか入らないということであれば、生徒さん本人や保護者からも部活動の扱い方への抵抗がないかもしれませんけど、8割といたら大抵の生徒さんが入るわけですから、働き方改革があるにしてもその扱い方については慎重にさせていただく必要があると思います。ほかに地域スポーツとして違う道はあるとはしながらも、生徒たちのスポーツへの思いを小さくしてしまうことにならないか、そこら辺をどうのように棲み分けをして整合性をとっていくのかということが大事だと思います。</p> <p>余計なことを言いますと、少し前にテレビで知りましたが、ある高等学校では、元プロ野球選手が子どもたちに教える機会を作ることが出来るようになったということでした。これは、人材センターのようなところがあって、登録している人をそれぞれの学校に派遣するという仕組みだそうです。先ほどコーチングという話が出ていましたが、子どもたちも直に元プロ選手の人からスキルの高い指導を受けられるという機会があるということ、また、子どもたちだけではなく、資格を持ってない先生も元プロ選手の人から子どもたちへの指導方法を教わる機会があるということで、これはいいシステムだなと思ったところです。先々は、このように幾らか変わっていくのかなと思っています。</p>
吉原教育委員	<p>それこそ、この資料の4ページで「部活動は、集団での活動を通じた人間形成の機会や、多様な生徒が活躍できる場」であるというように、私たちも中学校のころは部活動に入っていて、入らないと不良の始まりみたいに言われて、必ずや何かしらに入っておくように指導を受けたような世代であります。当然、部活動といえば縦社会の厳しいルールの中で、色々な先輩方の指導を受けながら、子どもなりに色々な勉強したのかなと思っています。昔みたいに厳しい指導が良かったのかどうかは別として、やっぱり個人的には部活があったほうが良いと思います。それこそ先生たちの負担を考えれば、令和5年度のこの全国展開がどういう形なのか想像もつきませ</p>

	んけど、商業的にお金を使って指導者を上手く利用しながら、その部活動を維持できればいいのかなと思っています。
副田教育委員	自分の経験から申し上げますと、私も運動部に属していたことがあります。いつも授業で接する先生と部活動の先生は、同じ1人の先生なんですが、その先生の間味をとてそのときに感じていて、とても身近に感じたことを覚えます。授業のときは苦手だと思っていた先生が、部活のときにはとても信頼できる憧れの先生になったということがありました。その多感な年頃のように、反抗期の自分が憧れの大人に出会えたということは、すごく大きかったなと思うんですね。それから、いろいろな部活がありますけれども、例えば勉強が苦手な同級生でもスポーツが上手に出来るとか、その小さな自信が大きな自信になっていくということがあったと思います。ですから、取り留めもない話ではありますが、部活動は大事だなと思いつつながら、お話を聞かせていただきました。以上です。
橋本市長	はい、ありがとうございます。恐らくこの2023年に向けて、国も様々な施策を講じてくると思います。そこに我々がどう対応していくのかということは常に考え続けなければいけないので、今日をスタートポイントとして皆様に考えをめぐらせていただいて、その時々状況報告を聞きながら、鳥栖市なりの方向性を打ち出していったらと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。 では、最後の報告事項をお願いします。
犬丸学校給食課長	(資料に基づき説明)
日吉学校教育課参事兼 課長補佐兼指導主事	(資料に基づき説明)
橋本市長	今日は、慌ただしくて申し訳ありませんでした。いくつか課題をそれぞれご指摘いただきましたので、今後ご意見を賜りながら進めていきたいと思っています。どうもありがとうございました。